

### 「北海道特殊教育諸学校は、 元気だぞー！」

北星学園女子短期大学 武田 亘明  
(takeda@netfarm.or.jp)

1997年9月22、23日の両日にわたり、第1回北海道特殊教育諸学校情報教育研究大会および、第1回北海道特殊教育諸学校情報教育研究協議会(北情研)設立総会が、北海道白糠養護学校において行われました。記念講演では香川大学中邑賢龍(なかむらけんりゅう)先生から「コミュニケーションから自立へ - テクノロジーが変える養護学校の教育 - 」と題して、テクノロジーを使って障害を取り除き(ディスアビリティ)子供の認知や意思の表出、自己決定等を実現することの考えかたや具体的取り組みの紹介を頂きました。

実践発表では、八雲養護高校の田子信先生の「特殊教育におけるインターネットの可能生」の他、「全盲者用ホームページ音声出力ソフトの開発」や、「キッズタッチパネルシステムの開発」、「コミュニケーションエイドの活用例について」、「スペシャルニーズシステムの紹介」、「視覚障害者用ソフトの開発」、「ALS患者用意思伝達装置の肢体不自由児への応用」など富士通やApple、IBM、日立などの各社からの報告がありました。展示では、各社の製品を実際に手にとってみることができました。研究大会参加者は95名、協議会設立メンバーは166人の規模となり、特殊教育の分野での情報教育への関心の高さが伺えます。

ACE北海道支部として、いくつかのプロジェクトの紹介をさせていただき、特に「バーチャル雪まつりプロジェクト」への参加を呼びかけてきました。今後も互いに協力し合っていきたいと思っておりますので、ACE会員の皆様のご協力をお願い申し上げます。



白糠に集まった先生方

北情研ホームページ : <http://city.hokkai.or.jp/hakuyo/hokujyoken.html>

### 近況報告

バリキャンプ~ボトルメール~ OCNエコノミー導入

札幌新川高校 吉岡 隆  
(yoshioka@shinkawa-hs.kita.sapporo.jp)

皆さん、こんにちはは新川高校、吉岡です。

しばらく、ニュースレターに登場していませんでしたので近況報告いたします。

7月末にメディアキッズサマーキャンプinBALIに生徒達と参加してきました。BALIに行くのは何と今回は初めてですが、すっぴりはまりました。インドネシアは通信事情が悪く、E-mailを出すのがやっとです。そんな場所でパワーブックとクイックテイクを持った30人の小、中、高校生と教師が竹細工やレゴンダンス、ガムラン、バリ絵画に挑戦してきました。子供達と教師は学校単位ではなく、小、中、高の混合の4つの班にわかれそれぞれテーマにもとずいた「こだわりの1品」「こだわりの1枚」を探しました。詳しくは、今月のMacLIFE、MacPowerで紹介されていますので、ご覧になってください。~私がはまったのは、「ナシ・ゴレン(チャーハン)」と「ミ・ゴレン(焼きそば)」です^^。

そのバリでキャンプサポーターのリクルート板橋さんから「ボトルメール」という不思議なメーラーを紹介していただきました。百聞は一見にしかず、帰国してからさっそく「ボトルメール」をダウンロードし、立ち上げると、砂浜と海が、(操作メニューの文字は見当たりません。砂浜に打ち寄せる波の音を聞いているとボトルが目の前にあるので、クリックしてみると絵葉書のような画像が現われます。それをまたクリックすると宝箱からスクラップブックが飛び出し、絵葉書が保存されます。宝箱にはスケッチブックもあり、それをクリックすると紙とクレヨンが出てきます。絵をかいて、ボトルをクリックすると絵はボトルの中に入れられて、海へ向かって流れていきます。(まるでCD-ROMの映像をみているようで、操作らしいことは何もしていません。)

これはすごい、小学校低学年の子供でも絵のメッセージを誰かに送ることができる、この時点でひらめいたのが、「ボトルメールforバーチャル雪まつり」です。ボトルメールは誰にいつ届くかわからないアプリケーションなので、雪まつりに参加する子供達だけにグルーピングされたボトルメールを開発できないカリクルート社の開発スタッフの皆さんに相談したところ、何とロゴ付の雪まつりバージョンを開発してくれることになりました。

10月中旬から「ボトルメールforバーチャル雪まつり」は参加校に配布されます。興味のある方はバーチャル雪まつりのホームページ(<http://www.miceng.co.jp/VSF1998/>)のボトルメールプロジェクトをご覧ください。

話は変わりますが、9月上旬に本校にOCNエコノミーが入りました。たぶん末に入るだろうと思っていたので、慌てて導入準備に入り、サーバーがやっと立ち上がりました。

この時の為にRedHat Linuxを用意しておきましたので、DNS、WWW、sendmailすべて1台で何とか稼働できる状態になりました。特に設定にあたっては、私は何にもわからないので、NTTの

皆様、村田先生、野間先生、桜庭さん、山崎さん、ネットファーム川村さんにオンブにダッコで助けていただきました。この紙面をお借りして関係の皆様にお礼申し上げます。

OCNエコノミーは、皆さんが想像しているより快適な環境です。今後、これを導入する学校も多いのではないかと思います。尾崎先生とPC-UNIXによるサーバー構築勉強会を企画しています。

詳しい内容が決まりましたら、mlやニュースレターでご連絡いたしますので、よろしくお願いたします。

## “新会員紀行 その百”

道都大学短期大学部 野口 光孝  
(nogu@netfarm.or.jp)

はじめまして、札幌生まれの札幌育ちですが現在は北広島市民の野口光孝です。現在、道都大学短期大学部で情報処理教育を担当しています。NCF 21世紀WGメンバーでもあります。ACEの存在は同僚の由水先生を通して知ったわけですが、でかい顔をして編集会議に出て編集後記書いたり、POEM大阪に行って「おやじっち」したりしてました。NCFに入会していることもあってACE北海道には知った顔が多く、先日でもACEMLに初メールした際、水越先生に「あれ？入ってたんだと思ってた」と言われてしまいましたぞな。

さて、みなさんご存じかと思いますが、今年6月マルチメディアの教育利用を多角的に考えようと由水先生とアメリカNASA/COTFを視察してきました。COTF視察で得た結論・・・「マルチメディアやインターネットという環境は、やはり、そこで何を表現したいか、すなわち明確なコンテンツがあって初めて効果が出てくるらしい。予算35億円のプロジェクトは、「ものを作って終わり」ではなく、「ものをどのように使うか」ということを実践していました。今日も元気だ。のーぶらぶれむ。これからも、よろしくお願いたします。



これがMACLIFEにも出た2400だよ～ん

### NASA/COTF 視察記 その4. 避雷針

さて、やっと目的地Wheelingにつき、スポーツバーでのミラー博士との楽しいお食事も終わり、初めてのアメリカの夜を迎えることになったわけでありませぬ。・・・おっ～、やっと普通の書き出しになっているではないか...ムフフ、そうなんだ、私だってやる時はやるのさ。みていたまえ、この鋭い文体が明日の日本を...ま、また(--;)・・・コホン。いや～、ところで6月のアメリカがこんなに蒸し暑いとは知りませんでしたのねん。行く前から吉田先生には「アメリカはあつよいよ～。半袖、Tシャツ、ステテコ、ビール。それ行けサーフィンご、ごっ、ご～」って言わ

れていたのですが、ピッツバーグに降りたつや「あ～、ほんとにあつ～いじゃな～い。東京の夏のようにじゃな～い。半袖いっぱい持ってきてよかった～。吉田先生の言うこと聞いててよかった～(^^;)」と思ったわけでありませぬ。・・・ってまた話ずれてるじゃん。

スポーツバーを出て、ミラー博士に送っていただきB & Bに着いたのは夜中の12時近くになっていました。「いや～今日はとても楽しかった。おかげさまで、旅の疲れもどこかへ飛んで行ってしまったようです。明日COTFのスタッフに会えることを楽しみにしています。どうもありがとう。おやすみなさい。」と心の中でつぶやきながらミラー博士と別れたのであります。部屋に戻りシャワーを浴び、ほっと一息ベッドの上で愛機PB2400Cを取り出し、さあ、インターネットだ～。あ～んそうだった。しらじらしいけど線がないんだ～。MODEMカードもないんだ～。大体部屋に電話がないんだ～・・・また、話は、ずれちゃうんですけどね(^^;)、アメリカに来る前は「COTFに行ったら日本語OSないだろうから、ケーブル借りてLANにつながせてもらって日本にメールだしちゃおう」って考えていたんです。だからLANカード絶対買わず～って意気込んでいたんですよ。ところが、2400出でからすぐ使えたのはfarallonのカードだけだったんですね。知らないでTDKのカードをあせて買ったんだけどドライバが対応していなくて、もう出発まで1週間ないし、札幌のショップじゃあどこもfarallonおいてないし、秋葉原には売ってるんだけど行けないし、電話したら通販で1週間かかるって言われるし、しょうがないからTDKに「ドライバがないとわたしとてもこまるの、早く作って、おねがいっ」っていうメールまで出したんだけど返事こなくて。ところが帰ってきてからTDKのホームページ見ると、我々が出発した前の日にドライバ修正版アップされてることになってるじゃありませんか。毎日みてたのに～も～おじさんおこったぞ～状態になりながらも、ダウンロードして今もしっかり使ってますわいな。・・・(--;)・・・コホン、閑話休題。翌朝は7時からミラー博士と我々の宿で朝食をとる約束をしているのであります。さあ、早くねよ～。部屋の中の扇風機クーラーのスイッチを止めるとにわかに暑くなってまいりました。「う～ん、アメリカがあ。ほんとに来たんだなあ。日本は・・・昼があ・・・よっしゃあ、明日がんばる・・・ハンバーガーうまかったなあ・・・あべたいざ・・・zzz」。アメリカの夜は静かに更けていくのであります。翌朝、約束の時間通りいらっしやったミラー博士と本日の予定などを話しながら、焼きたて手作りパン、ベーコン、炒り卵、野菜サラダ、オレンジジュース、果物、コーヒーという正当派アメリカ朝食をいただきました。う～ん、昨夜、どかもりあべたいざを食べたにもかかわらず、みんなわしわしとよく食べるの～と思いがながら3つめのパンに手が伸びたのはわたしです。

ジェスイート大学はB & Bから5分程度のところにあります。大学に向かう道みち、のんびりゆったりとしたWhellingの街並みを見ながら、さあ、いよいよCOTFだなあ。マルチメディアだなあ、教育環境だなあ、・・・と気持ちは高鳴って来るはずなのに、心中穏やかでなかったのはやはりあのインターネット会議リハーサルのことがあったに他なりません。みんな、集まってくれてるかな～、だれも、モニターに写らなかつたら寂しいなあ、まさか、みんな日にち間違えてないよなあ、心配だなあ。などと思っているうちにジェスイート大学に到着したのであります。山に囲まれた大学構内は8万坪というだけあって確かに広い。東京ドームが何個分って知ってたらお答えしますが今わかりませ～ん。ジェスイート大学の入口からNTTC (National Technology Transfer Center) の前にある駐車場まで行き、そこからCET (Center



## 副賞

上記の賞以外に、審査員の強い推薦があった場合には特例として「審査員特別賞」を設けます。その場合の作品数は特に限定しません。

応募方法：1，作品の応募

スクールページ上の応募フォームに必要事項を記入の上、ご応募下さい。

(作品の容量は20ページ以内でお願いいたします)

サーバをお持ちでない方は事務局までご連絡下さい。

審査はネットワーク上で行います。募集期間：1997年9月末日

上記以外の応募要項詳細をご覧になりたい方は、スクールページ上で詳細の参照ができますので、どうぞご参照下さい。

〒104 東京都中央区銀座2-14-5 第27中央ビルスクールページ  
コンテスト事務局 電話：03-3549-7376 F A X：03-5565-8520  
電子メール：letter@schoolpage.mxd.meshnet.or.jp

スクールページURL：

<http://www.asahi.com/schoolpage/> またはミラーサーバ

<http://mesh.asahi.com/schoolpage/>

スクールページはNECと朝日新聞が共同で行っているネット上の学校プロジェクトです。

スクールページでは昨年より、ネット上に作られている学校ホームページを対象にスクールページコンテストを行っています。今年も第2回目として開催いたします。

昨年度は新川高校が審査員奨励賞を受賞したACE北海道とゆかりのあるコンテストですが、今年度はなぜか一般応募ではなくコンテスト事務局がコンテストの水準を上げるため、直に学校ホームページにアクセスして応募を決めるという禁じ手のコンテストとなっているようです。さて今年は北海道から何校が受賞するのでしょうか？

## 10月度研究会のお知らせ！

北星短大の武田です。

10月25日(土曜日)14:00~17:00に様似町で「NCF 21世紀教育WGとACE北海道の合同研究会」を開催します。

以下、案です。ご意見くださいませ！

参加できる方は事務局までお問い合わせ下さい。

期日：1997年10月25日(土曜日)14:00~17:00

会場：様似町立図書館～様似郡様似町大通1-25-1

TEL 01463-6-4181

内容：

- 1.「様似町における情報教育の取り組み」(小松先生)
- 2.「様似町の図書館情報システム」(司書：佃 武司氏)
- 3.「バーチャル雪まつり1998の全貌と野望」
- 4.「Digital学校新聞プロジェクト」
- 5.「科学教育とゼンマイハグルマプロジェクト」

ほかを考えています。COTFとの交流、会議についての紹介などもいいですね。

懇親会 120分

宿泊

様似町にある研修センターでとまれるか問い合わせ中です。

## 編集後記

10月はイベント目白押し(いっつもか)で様々な出会いが期待できそうです。Webだ何だというけどやっぱり「人」がいて「場」があって、はじめてものが生まれてきますよね。(吉田)

会員になって初めての編集後記です。写真も載って、COTF視察記が載って、正体ばればれになりました。すばらしいでびゅうだなあ。次回はもっと目立たぬよう・・・(野口)

最近、PCの売れ行きが落ちてきているという噂があります。販売に気を使ってか、この情報はあまり大きく扱われていないのだけど、確かに売れ行きが対前年何%増といった報道は最近聞きません。そういえば近所の大手スーパーからは、パソコンコーナーが消えました。Windows95発売直後からのパソコンの売れ行きは凄く、これはこれで子供達がコンピュータに触れる機会が増えて良かったのですが、なんだか「パソコンは簡単」という言葉ばかりが先行していたような気がします。でも実はハードウェア自体の仕組みはWin95以前と同じなので、ソフトの操作からいったん離れると、そこでは専門知識が要求されることを売る側の人々はひたすら隠していたのではないのでしょうか。

この個人ユーザーへの販売不振の原因は消費税のアップとかWindows97の出荷遅れとか色々言われていますが、本当は、PCがある程度普及してきたことで、消費者側もそういった面が何となくわかってきて現状につながっている気がします。新しいコミュニケーションの手段としてのコンピュータネットワークは、各家庭に1台の端末設置が必要なのです。そういった世界に早くなって欲しいと私は思うのですが、準備が未熟な段階で商業優先で事を運ぶと、逆に長い休息の時間が必要になることをニューメディア時代に経験しているはずです。どうかこのマルチメディアの時代が幻でないことを日々願っています。(由水)

教師にとって怒涛の秋。学芸的行事に体育的行事、はたまた研究大会ラッシュです。研究大会と言えば発明工夫全道大会が刻一刻と近づいてきています。ACE北海道の総力を挙げてバックアップしなくてはなりません。かく言う私も国際理解教育にはじまり本業の理科教育そして性教育、途中道徳教育もはさまります。おっと忘れていけないのがACE北海道の研究会“マルチメディアキャラバンin様似”です。ひとりマルチメディアの小松先生をバックアップすべく札幌から押し掛けることにしましょう！それが終わるといよいよバーチャル雪まつりも本格的に動き出します。それまで、新刊を読んでじっくり勉強することにしましょう！(PDFもしっかり勉強せねば)(荒島)

「MAC LIFE」見ました？POEMのデジタル新聞工房が紹介されています。会場にいらしていたビデオジャーナリストの神田さんの記事です。写真は北海道支部の工房だけど、記事内容は北陸支部POEM新聞が賞賛されてます。「人の手による新聞づくりが原点だ...」ふむふむ。なるほど言えてますが、北海道工房は学生が作ったところがすごいんだもんね！由水先生曰く「やつら大阪から帰って変わった」。うどんをご馳走した甲斐があったってんだ。(青柳)

人間として最も寂しいことは、する仕事がないことであると聞いたことがあるけれど、限度を超えて仕事がありすぎると、これまた、家族とも会えなくて寂しいものである。人の温もりを感じられなくなるほど、寂しいことはない。ディスアビリティのツールとしてネットワークやマルチメディアを活かせなければ、皆が求める本当のネットワーク社会ではないんだよ！ACE北海道は、まだまだ頑張らねばなんないンデナイカイ!?(武田)

教育とコンピュータ利用研究会北海道支部

1997年9月29日発行